（第二期）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十八年十一月十五日（月曜日）　臺灣日日新報　第一万五千七百七號　（一）

臺灣日日新報

本日夕刊共四頁

海鷲又も敵艦を攻撃
巡艦等五隻を轟沈破
第四次ブーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

【東京發至急報】大本營發表（十一月十四日十五時）帝國海軍航空部隊は十一月十三日未明ブーゲンビル島南方海面に於いて敵機動部隊を捕捉攻撃し左の戦果を得たり

撃沈　大型巡洋艦一隻（轟沈）巡洋艦一隻（轟沈）驅逐艦一隻

撃破　戰艦一隻（大破）中型航空母艦一隻（大破）

我方の損害　未歸還二機

註　本航空戦を第四次ブーゲンビル島沖航空戦と呼稱す

百七十九機を撃墜破
ニューギニア方面陸鷲敵飛行場襲ふ

【東京發至急報】大本營發表（十一月十四日十時三〇分）

ニューギニア島方面我が陸軍航空部隊は十一月六日より同九日に至る間六回に亙りラム河及びマダム河流域のマダプテンビ等の敵飛行場を攻撃すると共に地上部隊と協力敵機を撃墜し次の戦果を収めたり

撃墜破　百七十九機以上

地上撃破及び炎上三十三機以上、燃料集積所炎上三箇所、我方の損害なし

陸鷲東印度の敵飛行場攻撃
溶闇を衝き必中魚雷
敵空母も沈没と推定

ビルマ方面我が陸軍航空部隊は十一月九日及び同十一日東部印度のインパール、パレル及びシルチア敵飛行場を攻撃し次の戦果を収めたり

撃墜破　百七十九機以上

地上撃破及び炎上三十三機以上、燃料集積所炎上三箇所、我方の損害なし

雄翼下に敵を慴伏
三百九十一機撃墜
ラバウルに於ける航空撃滅戰の詳報

【ニューギニア、印緬國境】去月廿九日以來

【東京發】十月二十一日ソロモン群島ブーゲンビル島南方航空戰において我がブーゲンビル島沖航空戰において、第一次第二次、第三次ブーゲンビル島沖航空戰と前後三回の敵艦船及び飛行機の撃破と第二回の敵艦の大破（撃破）とを報じたが、この有力な航空部隊をもつて更に第四次ブーゲンビル島沖航空戰を行ひ、十一月二日より五日に至る四日間ラム河、マヌカ河に於いて敵艦船及び飛行場に對する攻撃を開始するや敵の大航空母艦を撃破し、撃墜破百七十九機以上を報じたところ、その後の調査により敵艦船撃破の戰果を加へ、敵機撃墜破三百九十一機以上を確認するに至つた

【東京發】十月二十一日ソロモン群島ブーゲンビル島南方航空戰において我がブーゲンビル島沖航空戰において、第一次第二次、第三次ブーゲンビル島沖航空戰と前後三回の敵艦船及び飛行機の撃破と第二回の敵艦の大破（撃破）とを報じたが、この有力な航空部隊をもつて更に第四次ブーゲンビル島沖航空戰を行ひ、十一月二日より五日に至る四日間ラム河、マヌカ河に於いて敵艦船及び飛行場に對する攻撃を開始するや敵の大航空母艦を撃破し、撃墜破百七十九機以上を報じたところ、その後の調査により敵艦船撃破の戰果を加へ、敵機撃墜破三百九十一機以上を確認するに至つ

敗北しつゝ依然反抗

一瞬と雖も晏如許さず

坂口知事離任の感想

週間戦況

【陸軍発表】
支那方面
支那方面においては主として三省境地区において敵の三師に対し作戦中我が軍は敵を撃滅しつゝあり
南太平洋方面
ニューギニア方面においては引続きブナ、ゴナ地区の敵陣地に対し攻撃を続行中なり
ビルマ方面
ビルマ方面においては敵の航空撃滅戦に引続き我が軍はアキャブ地区の敵飛行場に対し攻撃を続行中なり

帝亞丸祖國へ歸る

引揚邦人感激の第一歩

非農家の衣類供出運動

新營郡、全島に魁く

一死奉公を誓ふ

山形公使、烈々の聲明

感激の刹那

繰り展ぐ無言の場面

汎米主義の行詰り

アルゼンチン益々毅然

空の決戦場で仇討

陸軍特別操縦見習士官に合格

闘志満々東山麟太郎君

大なる足跡殘した

坂口知事離任の感想

金言油斷は大敵

岡志烈々臺北鄉軍東分會

〝徴兵號〟獻納資金

十九萬一千餘圓

竹槍に婆ペンモ

仕拳の員郎支市・州竹新線日

徴兵號獻金威勢よし

嘉義郡下三萬圓突破

白衣の天使

感謝の會

昭南での帝亞丸

幼き女兒の感激

フ島沖の戰果に

國際展望

カイロ會談の内容

山形公使聲明

佛解放委員會改組

駐然たる四亞

國際展望

臺日案内

今日の映画

新竹の映画

明るい名刹精美堂

講習生募集

歯科澁谷醫院

歯科青木醫院

實務員養成會

ヤマトのパイプ

ニッポン

ソミキセ

謝意

會葬御禮

夕刊 臺灣新報
十一月十五日
昭和十八年十一月十五日（月曜日） 臺灣日日新報 第一万五千七百號 （一）

ダーウィン颱襲
軍事施設連續の大爆發

【西南太平洋○○基地十四日發同盟】豪州北部ダーウィン正面の○○基地は十一月十二日午前零時ごろボート・ダーウィンの敵艦船を攻撃しつつ敵艦船を攻げたの敵を挙げた

ボート・ダーウィンに在泊中の敵船舶をみな攻撃上よしフロックスクリークに在泊中の敵船舶をみなスコート・ボイントでは同夜に同港内の軍事施設を攻撃、一個所より十火災を出せしめパキラーで同夜に火災が起るのを認めた、この攻撃でわが方は全機無事帰還した

敵の發表
【ワシントン十四日發同盟】西南太平洋戦線発表によれば日本軍機なボート・ダーウィンを爆撃つた第十四日発表した

ブ島敵陣地にも巨彈
五箇所を爆發、猛火災

【西南太平洋○○基地十四日發同盟】わが航空は十日夜ブーゲンビル島ブインとトキナ西ロアルナタ島の敵陣地を攻撃しその一箇所に大火災を生じ二箇所より火災を起さしめたが、火災は約二十哩の遠くからも認めることができた

新設の育英團
學徒の心構へに就て

【西南太平洋○○基地十四日發同盟】ニューギニア戦線の激化に伴ひ敵は十二日ラバウル、ウエワク、ブナ、ラエ、サラモア、ポートモレスビー等の各地に対し大規模な空襲を行ひ、ラバウルに対しては実に百機に近い大編隊をもつて来襲したが、わが戦闘機隊は敵機を邀撃、これを撃墜破すること実に百十機に上つた

夜襲・王家畈に突入
殘敵の掃蕩を完了

【中支前線○○十四日發同盟】京漢西部の老河口地区における敵第一戦区司令官王家畈（老河口西方二十粁）附近に遁走中の敵第二十二師（師長劉汝明）の主力に対し、わが○○部隊は十一日夜半より十二日朝にかけ夜襲を敢行、敵陣地に突入これを掃蕩した

外交戰にも絶對勝利
大樞軸強化協力會議開く

【東京発】大東亜戦争下第二回大東亜会議は愈々来る十一月五、六日の両日東京において開催されることに決定したが、今回の会議は大東亜戦争の完遂に関する諸般の重要問題を討議するものであり、特に大東亜戦争の現段階に即応し大東亜諸国家間の緊密なる協力態勢を確立することを目的とするものである

華北の決戰態勢確立
スマトラ亦協力態勢成る

【東京発】大東亜戦争の一段階に即応し大東亜諸国家間の緊密なる協力態勢を確立するため、来る十一月五、六日の両日東京において開催される大東亜会議に出席のため、日本からは東條首相兼陸相、重光外相、青木大東亜大臣、鈴木企画院総裁、岡軍需相、岸国務相、賀屋蔵相、嶋海軍相、寺内南方軍総司令官、谷駐華大使、横山駐泰大使、堀内駐比島大使、三浦駐仏印大使、小林駐緬大使、村田駐馬来軍政監部総務部長、山口駐蘭印大使、河相駐タイ大使、井上駐満大使、武藤駐ビルマ大使、岡本駐スマトラ軍政監部総務部長、石井駐中華民国大使、阿部駐蒙大使、大島駐独大使、小磯国昭氏、畑俊六氏、梅津美治郎氏、杉山参謀総長、永野軍令部総長、嶋田海相、及川古志郎氏、米内光政氏、近衛文麿氏、広田弘毅氏、平沼騏一郎氏、林銑十郎氏、阿部信行氏、小泉親彦氏、鳩山一郎氏、松岡洋右氏、安藤紀三郎氏、鈴木貞一氏、緒方竹虎氏、藤原銀次郎氏、賀屋興宣氏、岸信介氏、青木一男氏、大達茂雄氏、下村宏氏、安井英二氏、小日山直登氏、井野碩哉氏、石渡荘太郎氏、寺島健氏、小畑忠良氏、豊田貞次郎氏、高木惣吉氏、武藤章氏、田辺盛武氏、佐藤賢了氏、岡敬純氏、中村豊一氏、大谷敬二郎氏、岡田菊三郎氏、大川周明氏、三宅坂一氏、三浦関造氏、三浦義秋氏、三浦義一氏、三浦義一氏、三浦義一

臺島戰鬪配置へ

皇奉運動活潑推進

中央本部 參與奉公委員會

本島決戰態勢に即應し一大飛躍をなすべく皇奉運動の活潑推進を圖るため中央本部參與奉公委員會を左の通り開催する

一、期日　十一月十七日

二、場所　臺北市役所

三、議題　皇奉運動實施に關する件

四、出席者　參與奉公委員

五、參與奉公委員會規程第四條第二項に依り皇奉運動實施に關する件を專決處分したるに付同條第三項に依り之が報告

六、其の他

皇奉運營委員會開催

臺北市皇奉運營委員會では十四日午後一時半から總督官邸で開催の參與奉公委員會に引續いて開催されるが同會に提出される大綱並に皇奉運動實施に關する件の協議を行ふ

輝く大戰果に接し

益々必勝の信念固む

臺北市奉壯總常會 決意表明

臺北市奉壯總常會では十四日午後一時から總督官邸で開催の參與奉公委員會に引續いて開催されるが同會に提出される大綱並に皇奉運動實施に關する件の協議を行ふ

【臺北電話】臺北市奉壯總常會では十四日午後一時半